

豊川市議会傍聴記

④

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

11月27日、3期目として市政を担うことになった山脇実市長は「責任の重さを痛感している」と緊張の面持ちで所信表明を行った。

「子どもたちの笑顔があふれ安全で安心な人にやさしいまちを目標とした政策ビジョンをまとめたい」として、その達成のために「Smile(笑顔)・Safety(安心)・Soft(やさしさ)・Simple(わかりやすい)の4項目を4Sのまちづくりとして掲げ、33項目

減少に対応した「人口増につながる子育て支援策」は将来の活力ある豊川市への柱であり、地方創生への重要な位置を占めているとして議論を進めた。市長は「産業振興に関連して八幡地区にある2社の企業撤退

づくりの方向性に合わせた土地利用をお願いしていることを明らかにした。

また文化芸術への対応については、質の高い芸術に触れていく機会を増やしていくけば、文化芸術の担い手も増え、感性豊かなまちづくりにつながることを強調した。

その中で、地域産業振興については、住宅リフォーム助成事業や商店街リニューアル制度の実施について提案し、日本脳炎予防接種の重複事故の教訓から市民への個別通知の徹底を強調した。

豊川市では多様なニーズにこたえて7年前から先進的に民間医療法人と業務委託契約し定員4人で病児・病後児保育を運用し、昨年では357人(1日平均2人)が利用しており、17年度までに新たな開設をめざすことを明らかにした。

豊川市の風水害対策については、今年度の風水害対応状況から質問を始めたのは平松八郎氏(同)。

市民との対話を軸に政策総動員



洪水ハザードマップの運用、豊川や豊川放水路などの河川水位の監視状況や変化する雨量による対応、それに伴う避難勧告等の基準や伝達方法について消防長に縷々(るる)説明を求めたが、昨年8月の広島土砂災害、今年9月の鬼怒川の堤防決壊などの教訓から課題を絞って議論していただいたか

とよかわ未来を代表した野本逸郎氏は、かみ合わない争点で最低の投票率に終わった市長選の総括から質問を始め、政策ビジョン、今後のまちづくり、財政の健全化など多岐にわたる質問を展開した。人口

退による、合わせて22社の広大な土地の新たな活用は重要な課題」とし、日立の土地に関しては、利便性を考慮して文化交流福祉施設の候補地として用地取得を念頭に動いていることや、スズキの土地についても市のまち

の対応、市議団の予算要望の角度から市長の所信表明に質問した。

特に子育て支援については増加傾向にある発達支援児への取り組みについて、その子に寄り添って配慮する加配保育を充実し、児童発達支

また施設再編の整備方針の取り組みでは、歴史的に形成された地域コミュニティの希薄化を指摘したが、市民にとって重要な問題提起であり、さらに議論を深めていただきたか

◆子供子育て支援